

つきたい力を「明確化」した 「アメリカ合衆国」の授業づくり

～「つきたい力」の育ちをみるペーパーテスト問題の開発と
ペーパーテスト問題を生かした授業改善を通して～

福岡市公立中学校教諭

1

はじめに

「さまざまな地域 ～世界の国々を調べよう～」の学習は、教師も生徒も、この単元の学習を通してどんな力がつければよいかかわりにくかったのではないだろうか。本稿では、この単元の学習の目標を、「事例としてとりあげた国の地域的特色を捉えさせる学習を通して国家規模の地域的特色を捉える視点や方法を習得させること」と捉え、次の①②を実践上の課題としたい。

①事例としてとりあげた国の学習を通して生徒に、その国の地域的特色を捉えどのような視点や方法を習得させたいのかを明確にとともに、評価方法を開発していくこと。
②事例としてとりあげた国の地域的特色をどのようなものとして生徒に捉えさせるのが適切かを教師が検討しておくこと。

これらの①②の課題を解決する一つの方法として本稿で提案するのは、「単元の学習に入るより先に、生徒に解くことができるようになってほしいペーパーテスト問題や、作ることができるようになってほしいイラストマップを教師が考案し、このペーパーテスト問題を生徒が解くことができるように、また、イラストマップを作ることができるようにするための授業を工夫していく」というものである。これを「つきたい力を『明確化』した授

業づくり」と呼ぼう。この授業づくりによって次の①②の効果が期待できる。

①めざす生徒の姿のイメージをもち、ペーパーテスト問題を先に作ることによって、教師は、作った問題を生徒が解くことができるようにするための授業の工夫を、より具体的に考えやすくなる。②生徒にとっては、ペーパーテスト問題とイラストマップといった単元の到達点（何ができれば・わかればよいか）がはっきりするとともに、授業でがんばったことがペーパーテスト問題に出題されるので、授業に真剣に取り組むことが大切だと意識し、意欲的に取り組むようになる。

2

つきたい力を「明確化」した 授業づくりの基本的な考え方

（1）つきたい学力を「具体化」する方途

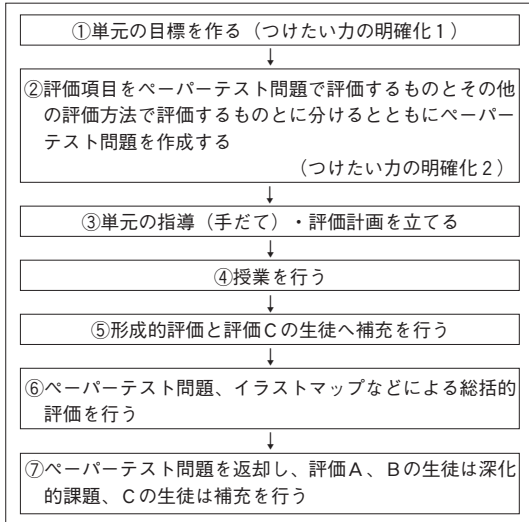
つきたい学力を「具体化」するには「明細化」と「明確化」の2つの方法がある。前者は、評価項目をできるだけ微細な要素に分けて（評価規準・基準づくり）、つきたい学力を具体化する方法である。王道ではあるが、細かな規準づくりとその評価に追われてしまう。一方、本稿でめざすのは、後者の「明確化」である。つまり、つきたい学力の「明確化」とは、ある単元の学習を通して生徒のどんな変容を期待するのかについて「○○ができるようになる」というように総合的に記述

し、イメージ化してつきたい学力を具体化する方法である。

(2) 授業づくり

単元構成や指導上の手だてよりも先にペーパーテスト問題をつくるという、この学習の指導の流れは次の図1ようになる。

図1 学習の指導の流れ



つきたい力を明確化する手だてや、つきたい力の例、ペーパーテスト問題づくりの基本的な考え方や、テストの例等については次項において、アメリカ合衆国の学習を例に述べる。

3

つきたい力を「明確化」した授業づくりの実際～アメリカ合衆国の場合～

(1) 学習を通してつきたい力の設定

まず、事例としてとりあげた「アメリカ合衆国」の学習を通して生徒につきたい力や、捉えさせたい地域的特色を、本書「中学生の地理 初訂版」をもとに設定する。(図1の①)

つきたい力 (単元の目標) の例

- ・アメリカ合衆国を調べる視点を選択し、選択した視点(生活・文化・農業・工業)に関する主題図、統計資料等、様々な資料を収集し、これらの資料から読み取ったことを整理する。そして整理したことをもとにアメリカ合衆国の

地域的特色を表現したイラストマップを作成することができ、アメリカ合衆国の地域的特色を説明することができるようになる。

- ・前述した力をみる観点別ペーパーテスト問題を半分以上解くことができるようになる。

(イラストマップ、ペーパーテスト問題)

捉えさせたいアメリカ合衆国の地域的特色の例

- ・移民の歴史により形成された多民族国家
- ・世界中に広がる大量消費、合理的な生活様式を生み出した国
- ・輸出するために大規模経営の農牧業を行い、世界に影響力を持つ国
- ・先端産業が中心で、様々な工業製品を生産・輸出する世界有数の工業国

(2) ペーパーテスト問題づくりとイラストマップの作成 (図1の②および⑥)

ペーパーテスト問題づくり

本稿では、次のような理由で、社会科の評価としてペーパーテスト問題を重視する。

知識、資料活用 of 技能・表現や思考・判断の評価に有効だから。また、授業を通して学んだことが定着しているかや学んだことを他の場面に生かせるものになっているかといった「確かなもの」になっているかをみるのに適しているから。

問題作成にあたっては、知識・理解だけでなく、高次の学力(思考力・判断力、表現力等)を評価する、「覚えているだけでは解けない問題」も作成するようにする。

地理的情報を白地図上に表現・整理して特色を捉える力はイラストマップを描く際に必要である。この力が身についたかどうかをペーパーテスト問題で確かめるには、生徒が学習していない国、たとえば次のようにオーストラリアを事例に出題する。

資料活用 of 技能・表現力 of テスト問題例

解答用紙のオーストラリアの白地図に、地図帳62ページを見て、工業生産額が多いおもな都市を位置や生産額の大きさ、工業の種類がわかるように書き込みなさい。また、この作業をもとに、オーストラリアの工業の特色を説明しなさい。

(～地域で～工業がさかんである。などのいい方で)

生徒はイラストマップ作成の際、主題図の読み取りを行っている。地図帳の主題図からアメリカ合衆国の鉱工業の地域的特色を読み取ることができるかどうかをみる次のような問題場面設定型での出題が考えられる。農業の視点から調べた生徒が不利にならないように工夫することが望まれる。

----- 資料活用の技能、思考・判断のテスト問題例 -----

A君はアメリカ合衆国について調べています。まず、A君は「アメリカ合衆国はどんな国か」を明らかにするために、鉱工業、日本との結びつきといった視点から調べています。地図帳を見て、次の各問いに答えなさい。

- 問1 A君は、アメリカ合衆国の鉱工業の特色について調べました。地図帳56ページA鉱工業の地図を見て、調べることができるものを、次の1～4からすべて選び番号で答えなさい。
- 1 アメリカ合衆国では、どこでどんな資源がとれるか。(資源のおもな産地)
 - 2 アメリカ合衆国では、どこで工業がさかんか。
 - 3 アメリカ合衆国において、先端産業がさかんなところはどこか。
 - 4 アメリカ合衆国の工業はどのようにして発達したのか。
- 問2 問1で答えたもの(あなたが1～4から選んだもの)から、あなたが調べたいことを1つを選びなさい。そして選んだことについて、地図帳56ページA鉱工業の地図で調べてわかったことを簡単に答えなさい。
- 問3 次にA君は、アメリカ合衆国と日本との結びつきの特色について調べました。次の1～4の文のうち、地図帳57ページの地図、A日本の工場の進出、B貿易、C人の行き来を見て、読み取れないものを1つ選び番号で答えなさい。
- 1 アメリカ合衆国への日本の工場進出数は、全体的にみると、自動車・部品や電子・電気機器よりも精密機械、食品の方が多い。
 - 2 アメリカ合衆国は、日本への輸出額より日本からの輸入額の方が多い。
 - 3 日本からアメリカ合衆国へ行く人の数は、アメリカ合衆国から日本へ行く人の数の約4.7倍である。
 - 4 アメリカ合衆国は、日本で見られる身近な製品の発祥地を数多く持ち、日本に航空機をはじめ様々な商品を、他の国よりも多く輸出している。
- 問4 A君は最後に、アメリカ合衆国の鉱工業の特色やアメリカ合衆国と日本との結びつきの特色について、問1～3で調べたことをもとにわかったことを次の1～4のようにまとめました。この1～4の中から正しいものを2つ選び番号で答えなさい。
- 1 アメリカ合衆国では、電子部品などの先端産業がさかんである。
 - 2 アメリカ合衆国は、五大湖周辺から北東部にかけての地域、西部、南部などに工業地域が発達している。
 - 3 アメリカ合衆国の鉱工業と日本の工場の進出はあまり関係がない。
 - 4 アメリカ合衆国は、工業製品をはじめ、農産物、映画等の文化など様々な面で日本に影響を与えている国である。

イラストマップの作成

教科書、地図帳、自分で収集した資料を読み取り、担当した視点に関する地域的特色を整理し、イラストマップにまとめさせる。たとえば、工業の視点からイラストマップを作成するとすれば、「どのような工業がさかんなのか」を、「アメリカのおもな工業製品や資源の世界における順位と輸出先はどのようになっているか」、「どのような工業製品がどこで作られているか」といった点について調べさせ、イラストマップにまとめさせることが考えられよう。

(3) 国調べにおける教科書の活用

次の①②のような教科書の活用の仕方を指導していく。

①手引き書としての教科書の活用

アメリカ合衆国の地域的特色を調べていく前に、読んで参考にさせるような活用の仕方である。「中学生の地理 初訂版」は調べた例を示したものになっている。導入部として「世界の国々の調べ方を身につけよう」p.103～104が設けられている。ここはそれぞれ、「国調べの方法を身につけよう」＝調べ方の手順、「項目、調べる視点の例」＝調べる視点と下位の視点(国の地域的特色を調べる際には、どんなことに目をつけたらよいか)、「国調べをはじめよう」＝テーマの作り方、を示している。

さらに、各ページには本文記述に沿って国調べのための4つのツールが配置されている。これらはそれぞれ、「5つの視点のインデックス」＝調べる視点、「調べ方」＝具体的な調査項目と調査方法、「調べ先」＝資料の入手先や入手方法の例、「地理の見方ポイント」＝その特色は、どんなことをみればわかるか、どん

なことと関係があるか、本文記述は、どんなことをどんな資料を使って調べ、その資料をどのように読み取ればどんなことがわかるか、を示している。

ガイダンスの際に、「教科書ではどんなアプローチをとっているか読み取ってみよう」や、「事例としてとりあげた国の地域的特色をどのようなものとして捉えさせようとしているだろう」、「そのような地域的特色がその国にみられることを教科書ではどんな資料をもとに確かめているだろう」などと問い、活用させるようにしたい。

②資料としての教科書の活用

調べる際に、グラフや主題図等の資料をそのまま使ったり、本文記述を引用したりして、資料として使うようにさせる活用の仕方である。本書には、本文記述と関連する資料の他に、「〇〇に住む家族の生活から国の特色を読みとろう」や「〇〇の人の話（人々の暮らしがわかる囲み記事）」＝地域の具体的な暮らしの様子、「日本との結びつきを調べるキーワード」＝その国の日本との結びつきの具体例、「環境問題を調べるキーワード」＝事例地域の環境問題が示されている。ガイダンスで、こうしたページの紹介と「こんなふうに使えよ」ということを説明し、調べる際に使わせるようにしたい。

(4) 指導内容・方法の工夫・改善および授業の計画 (図1の③)

- ・一人ひとりの興味・関心を重視した探究活動を取り入れた。(共通学習→課題選択・探究活動→発表会・まとめ)
- ・イラストマップ作成時の個別指導や作成したイラストマップについてのカンファレンス(生徒の対話・協議)をチーム・ティ

ーチング(T・T)で行う。

- ・2段階の形成的評価と補充を行う。(図1の⑤および⑦)

授業の指導・評価計画例

学 習 活 動 ・ 内 容	
6 時 間	1 ガイダンス(共通学習)を受け、学習のすすめ方などを知る。 [第1時]
	アメリカを様々な視点で調べよう。
	2 様々な資料を収集・整理して調べる視点を決める。 ・世界中に広がる生活・文化、世界に影響力をもつ農業、世界の最先端をいく工業。 [第2時]
	3 各視点ごとに調査内容と方法を検討し特色を調べ、調べたことを「アメリカ合衆国ってこんな国イラストマップ」にまとめる。 [第3～4時]
	4 カンファレンスを行う。 [第5時]
5 班内発表会で発表し合い、全体のまとめを行う。 [第6時]	

第1～2時 ガイダンスとテーマ決め

ガイダンスプリントを見せ、「アメリカ合衆国の特色を大まかに知るとともに、アメリカ合衆国についての学習の進め方を知ろう。」とよびかける。つけてほしい力や単元のゴールについては「この単元では、イラストマップを作ってもらったり、終わりにはペーパーテスト問題を解いてもらいます。」と告げておく。さらに、アメリカ合衆国の特色をどんな視点から調べたらよいか考えさせ、その後、教科書ではどのような視点から調べているかや、調べる方法等を読み取らせていく。最後に、班別に話し合わせて、アメリカ合衆国の地域的特色を調べる視点を、班内で1人1つずつ担当させる。

第3～4時 イラストマップの作成(T・T)

ここでは、収集した資料は十分な量か、使おうとしている資料は、選択した視点に関連しているかどうか、資料から何を読み取ればよいか、選択した視点に関する地域的特色が

わかるようにするためには、何（地理的事象の位置、分布、地域間の空間的相互作用など）を、どのように地図上に表現（記号、色、説明文の内容等）すればよいかを、探究ガイドなどのプリントで一斉に、あるいは個別に指導していく。

アメリカ合衆国の地域的特色を紹介するイラストマップをつくらう。（B4サイズ）
イラストマップ（工業）のイメージ

テーマ（視点） 生活・文化、農業、工業
<p>どのような工業製品がどこで作られているかを示した地図を入れる。</p>
<p>*資料、地図、イラストなどには説明をつけよう、字の大きさや形、色などを考えよう。わかりやすくていねいに書こう。</p>
この地図についての説明・CM
使った資料名、調べた方法
感想

第5時 カンファレンス（T・T）

イラストマップについて次の内容で教師に説明させる。対話しながら、描いたことが自分でわかっているかを確認し、必要に応じて助言を行い、発表会につなげるようにする（教師二人で分担して行う）。その後、右記の観点に基づいて評価する。

このイラストマップは、「 <input type="text"/> 」からみた、アメリカ合衆国の特色を示したものです。このイラストマップからは「 <input type="text"/> 」ということがわかります。

第6時 発表会とまとめ

班内発表会を行わせ、他の人の発表から学んだことをワークシートにまとめさせる。全体のまとめ（調べる際の視点と調べる項目には何があるか、どんな資料で調べるか、3つの視点からみえてきたアメリカ合衆国の地域的特色は何か）を行う。

発表会ワークシートの例

1. イラストマップをもとにした他の人の発表を聞いて記入しよう。

順番	発表者	発表テーマ	発表からわかった特色	調べる視点、調べ方等で参考になった点
1				

2. アメリカ合衆国はどんな国だということがわかりましたか。生活・文化、農業、工業の3つの面から説明しなさい。

3. ある国の特色（どんな国か）を明らかにするには、どのようにすればよいということがわかりましたか。

（5）総括的評価（図1の⑥）

下記のような観点で考える。

総括的評価の例

	観点	評価基準B	評価基準A
イラストマップ	関心	適切な資料をもとに生活・文化、農業、工業のいずれか1つの視点からの特色がいているわかる地図を作成している	多くの資料を収集。詳しくまとめ、複数の視点を関連づけた地図表現を工夫している
	思考	どのような視点から見た、どんな特色を表現した地図かを教師に説明できる	それぞれの特色がどのように関連しているかを説明できる
発表会ワークシート	資料活用・表現	白地図に必要事項を表現できている（位置、分布が正しい）	わかりやすく工夫して表現
	関心	他の人の発表を聞いてわかったことをきちんと記入、特色を3つの面から適切に記入している	詳しくていねいにきちんと記入、特色、調べ方を両方適切に記入している
テスト	すべての観点	正答率50%以上	正答率80%以上

参考文献：赤沢早人「確かな学力を育てる学習指導」福岡市立春吉中学校 校内研修会資料 平成17年11月10日